TDCOP（Transdisciplinary Community of Practice）：トランスディシプリナリー実践共同体に関して

1. TDCOPをサークル活動と言い換えられたのはわかりやすくてよかった。いろんな部活が現れたり消えたりしながらメンバーも入れ替わっていくなら、最終的に解決したい問題（この場合はASGM問題）のことを忘れることなく続けていくのは大変そう。どういう工夫があるのでしょうか。

榊原先生回答：質問有難うございます。TDCOPのメンバーで中心となるのは、コアメンバーと呼ばれている人たちです。彼らは、この組織の役割を理解して、グループメンバーを引っ張っていきますので、その方たちがきちんと対応していただけると思います。

2. TDCOP を支配したり、妨害するようなこと、政治的に利用するようなこと、は起きないのか。なぜ起きないのか。工夫は？

榊原先生回答：ご質問にお答えします。トランスディシプリナリー実践共同体を支配したり、妨害したりすることや、政治的に利用することは、完全に防ぐことは難しいかもしれませんが、いくつかの工夫や取り組みでその可能性を最小限に抑えることができます。

(1)透明性と公正さの確保:
プロジェクトや共同体の運営において透明性と公正さを確保することが重要です。意思決定プロセスやリソースの配分などが透明であり、関係者がそれらに参加できるようにします。

(2)ダイバーシティとインクルージョン:
多様なバックグラウンドや専門知識を持つ人々を共同体に招き入れることで、単一のグループが支配することを防ぎます。また、異なる視点や意見を尊重し、全てのメンバーが参加できる環境を作ります。

(3)コミュニケーションと協力:
メンバー間のオープンで効果的なコミュニケーションを促進し、協力関係を築くことが重要です。

(4)リーダーシップとガバナンス:
リーダーシップが公正であり、権力が分散していることが重要です。共同体の方向性や目標に関する意思決定は、メンバー全体の合意に基づいて行います。

(5)教育と倫理観の強化:
メンバーに対して、倫理観や専門知識の重要性を議論し、共同体内での適切な行動を促します。また、倫理観に反する行為や政治的な利用を防ぐための規範を設けます。

3. 文化を経済化することにやっきになっているのは正にこの京都ではないでしょうか。
TDCOPの取り組みはその答えを果たして提供できるのでしょうか。
考え方を変えていくのはエネルギーが必要です。それはどこから？

榊原先生回答：ご質問有難うございます。難しいご質問です。私は、当然、京都の事も念頭にあります。
TDCOPの取組がその答えとなるのかは、現在のところ、よくわかりません。
是非、この点に詳しければ、ご意見をお聞かせください。

TBO（Transdisciplinary Boundary Object）：共通の地域アイコンに関して

4. 関心の多様性の中、TBOを見つける方法は？例えば日本の都市のような環境では困難なのでしょうか。

榊原先生回答：ご質問ありがとうございます。トランスディシプリナリー・バウンダリー・オブジェクト（TBO）は、異なる分野や専門領域が交差する場所や対象物を指します。これらを発見するためには、いくつかのアプローチがありますが、日本の都市のような環境でも可能です。

(1)探求心と好奇心:
まずは、自分自身の関心や好奇心に耳を傾けることが重要です。自分が何に興味を持っているのかを理解し、それに関連する異なる分野や領域を探求します。

(2)ネットワーキングと交流:
都市では様々な人々が集まり、異なる分野や専門知識を持つ人々との出会いがあります。ネットワーキングイベントや専門家の集まりに参加し、異なるバックグラウンドを持つ人々との交流を通じて新しい視点やアイデアを得ることができます。

(3)イベントやコミュニティへの参加:
都市では多くのイベントやコミュニティが活発に活動しています。特定の関心やテーマに焦点を当てたイベントやコミュニティに参加することで、異なる分野や専門領域が交差する可能性があります。

(4)オープンな姿勢と柔軟性:
TBOを発見するためには、オープンな姿勢と柔軟性が重要です。予想外の場所や出来事からも学び、新しい発見をすることができます。

5. よき（筋の良い）TBOを見つけるのが活動のキモになりそう。それは地域文化に精通してないと難しい気がします。TBOの設計は研究者がすることが多いのでしょうか？

榊原先生回答：ご質問有難うございます。基本的には、TDCOPの予定メンバーで、対等な関係で話し合いのなかで決めます。研究者がTBOの設計を決めるということはありません。

SRiREP
regional innovation

MSC (Multi Sector Cooperation)：マルチセクター協働に関して

6. 民間企業の参加が必要！というのは、経済に組み込む必要があるから、と言う理解であっていますか

榊原先生回答：ご質問有難うございます。先日の講演では、「文化は経済を超えられるのか？」というタイトル進めましたが、話の中に私のジレンマがあります。それは、経済と異なる軸で文化があるので、様々な人間の活動の評価軸は、経済のみではないはずです。しかしながら、現実的に、文化を発展させるためには、経済という軸も必要なのです。例えば、何か文化の展示会を企画する時に、展示会場の使用料金が必要となりますよね。そうすると、そのお金を何とかしなければなりませんが、それはどうしたら良いでしょう？民間セクターを運営する人たちの中には、経済よりも文化が大切だと考えている人たちも多くはありませんが、いらっしゃいます。そういう人たちを見つけることができれば、一緒に協力して活動ができると思います。

7. MSC（マルチセクター協働） の民間企業はそのコミュニティの範囲の企業ですか？海外も含みますか？

榊原先生回答：ご質問有難うございます。MSCに参加する民間企業は、海外でも可能です。特に制限はありません。条件としては、目的や価値観が共通するものを持っていることが望ましいです。

8. マルチセクター協働のコーヒー農園で働こうと思う人と、金採掘から抜けられない人は、どんな違いがあるのでしょうか？

榊原先生回答：ご質問ありがとうございます。マルチセクター協働のコーヒー農園で働こうとする人と金採掘から抜けられない人の間には、以下のような違いがあると考えられます。

(1)生業（仕事）の持続可能性への関心:
マルチセクター協働のコーヒー農園で働こうとする人々は、持続可能な農業や地域の持続可能な開発に強い関心があると考えられます。一方、金採掘から抜けられない人々は、金採掘による環境問題や地域社会への影響をあまり気にせず、一時的な経済的利益を重視すると思われます。

(2)労働環境や健康への配慮:
マルチセクター協働のコーヒー農園で働く人々は、多面的な視点から、労働環境や人々の健康に大きな負荷をかけない適正な労働環境・条件や社会的な影響を重視すると思われます。それは、多様な価値観の人々が平等に仕事に取り組んでいるからです。一方、金採掘に従事する人は、しばしば過酷な労働環境・条件や人権侵害のリスクが高い状況下で働いています。

(3)地域社会への貢献:
マルチセクター協働のコーヒー農園で働く人々は、地域社会への貢献や持続可能な地域開発に希望を持っており、関係する様々な人々から応援していただいています。一方、金採掘から抜けられない人は、しばしば地域社会に対して健康・環境問題で負の影響を与えることがあります（例: 環境破壊・汚染等）。

(4)将来の生活への展望:
コーヒー農園で働く人は、持続可能な職業や収入源を見つけることで将来の安定を目指しています。一方、金採掘から抜けられない人々は、危険で不安定な収入（金採掘）に依存しており、将来の本人およびその家族の生活の展望も不透明です。

水銀汚染に関して

9. 産業革命以降水銀汚染が増えているのはわかりましたが、魚だけで陸上動物にはそんなに溜まらないのでしょうか（肉食してたら問題ない？）

榊原先生回答：ご質問有難うございます。産業革命以降、地球上での水銀汚染は増加していますが、一般的に陸上動物における水銀蓄積は、水中生物に比べて低い傾向があります。これは、水銀が主に水中で循環し、食物連鎖を通じて魚や水生生物に蓄積されるためです。

陸上動物における水銀蓄積が少ない理由にはいくつかの要因が考えられます。

(1)食物連鎖の長さ:
水中生物の食物連鎖は比較的短く、小さな生物から大型の捕食者までの間で水銀が蓄積されます。一方、陸上動物の食物連鎖はより複雑であり、水銀がより効率的に生物体に取り込まれる前に、摂取されるエネルギーが多くの段階を経ることがあります。

(2)代謝能力の違い:
水中生物と陸上動物の代謝率は異なります。一般的に、水中生物は水中での代謝が高く、水銀が体内に吸収される速度が速い傾向があります。一方、陸上動物は水銀を効率的に排出するための生理学的機構を持っていることが示唆されています。

（3）生息環境の違い: 水中生物は水中で生活し、水中からの水銀の吸収や摂取が一般的です。しかし、陸上動物は土壌や植物を介して水銀を摂取するため、水銀濃度が低いことが多いです。

ただし、陸上動物でも水銀汚染の影響を受ける場合があります。例えば、水銀を多く含む土壌や植物を摂取したり、水銀が大気中に漂う形態で存在する場合には、陸上動物にも水銀が蓄積する可能性があります。したがって、水銀汚染に関するリスクを理解し、適切な管理が重要であると思います。

SRiREP
regional innovation